

敷津地区
社会福祉協議会広報誌
「敷津友愛」
第25号 通巻25号
平成27年3月5日

愛友津數

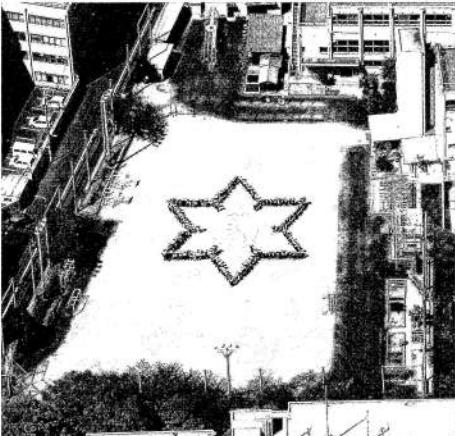
発行所
大阪市浪速区敷津東3-11-6
松尾武司
印刷所
大阪市浪速区戎本町2-3-5
(株)キッコーナートン

敷津小学校が
創立百四十周年

創立百四十周年

明治七年五月二日に西成郡第一区第五番
小学校として誕生以来、(平成二十六年)で
創立百四十年となりました。
五月二十五日(日)に多くのご来賓の方々
をお迎えして、記念式典が挙行され、小学
校関係者の皆様と共に喜びを分かち合いま
した。

又、記念祝賀会も同日十二時より行われ
旧交を温めることが出来ました。



創立140周年記念事業実行委員長
松尾



A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit and tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

念事業委員長をつとめさせていただき、感激の極みであります。

本校では、昨年より公募校長であります山口校長を迎えて、しつかりした学校教育を開展していただいております。今年も「安心・安全の学校づくり」を基本として、「学力・体力の向上」や「道徳心・社会性の向上」、「基本的生活習慣の定着」「保護者・地域との連携」等のカリキュラム改革を発表されています。

これから町づくりの基礎となりますのは教育であり、21世紀を担う子ども達が心身共に健康であり、豊かな心を育んでいたとき、そして敷津小学校の教育140年の歳月を顧みるととともに、今後一層の発展・飛躍を期して関係者一同が心を新たにして取り組んでいただければと思っています。その為に私達でできることは、全力で取り組んでいきたいと存りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、敷津小学校の益々の発展を祈念し、140周年記念事業にご尽力いただきました関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

念事業委員長をつとめさせていただき、感激の極みであります。

本校では、昨年より公募校長であります山口校長を迎えて、しつかりした学校教育を開展していただいております。今年も「安心・安全の学校づくり」を基本として、「学力・体力の向上」や「道徳心・社会性の向上」、「基本的生活習慣の定着」「保護者・地域との連携」等のカリキュラム改革を発表されています。

これから町づくりの基礎となりますのは教育であり、21世紀を担う子ども達が心身共に健康であり、豊かな心を育んでいたまき、そして敷津小学校の教育140年の歳月を顧みるととともに、今後一層の発展・飛躍を期して関係者一同が心を新たにして取り組んでいただければと思つています。その為に私達にできることは、全力で取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、敷津小学校の益々の発展を祈念し、140周年記念事業にご尽力いただきました関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

活動協議会・子ども会との共催で行うことになりました。お互いに顔と名前を知ることで、地域での見守りの目を増やす機会になります。日本の伝統行事であるもちつきを、知らない児童も増えました。人數が少ない敷津小だからこそできました。豊かな体験です。これからも、地域とのつながりを大事にして子ども達を育てていきたいと、改めて思いました。

先日、5年生が「敷津小のいいところ」を考えてくれました。「全校児童が友だち」「チャレンジいっぱい」「140年の歴史」などを挙げて、他の学校にはない魅力を自分たちで探してまとめたのです。その中に「世界の友だちがいる」という言葉がありました。

現在、敷津小には日本を含め8カ国にルーツを持つ児童がいます。外国からの転入生も、子ども同士で関わりながらたくましく成長しています。子どものころから、自然と国際的な環境にあることも敷津小学校のいいところだと考えています。

2学期からは、毎週金曜日の朝「Shikitsu English Time」として英語のミニ講座も始まりました。コミュニケーションツールとしての英語を、抵抗なく使える子ども達を育てたい。同時に、外国から来た友だちを温かく受け入れ、学校を好きになつてもらえるように努めています。地域の方からもご理解やサポートをいただけると嬉しく思います。

141年目を迎える「小さな学校★大きな家族 チーム敷津」を、どうぞよろしくお願いします！

お祝い申し上げます。

本校は明治7年に創立された歴史ある学校です。その歴史の中で、先生方と保護者、地域の人一人の健全な育成を図る教育の実践についてこられたことは、本校の素晴らしい伝統となっています。現役PTAとしてな

いへん力強く感じるところであり、この間の不斷の努力と情熱に対して深く敬意を表すところあります。

現代はインターネットなどの通信技術が発展し、世界中のひとつながることができ、世界中の情報を知ることができる便利な時代となりました。しかし一方で、昔ながらの隣近所との付き合い、人と人との心通う付き合いは薄れ、そこからさまざま問題が起こっています。

幼年期、思春期といった人間形成にとって最も大切な時期に、寂しい気持ちを心に抱く子どもも少なくありません。

子どもたちは周りの大人们から温かく見守られている安心感と、いつも見られているという緊張感の中で、健全に育つていくといいます。本校の宣言葉「小さな学校・大きな家族」の心を大切にしたいと思います。

140周年という大きな節目にめぐりります。皆さまにはこれからもかわらぬご理解、ご協力ををお願い申し上げます。

最後に140周年記念事業にご協力くださいました多くの方に、心よりお礼を申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます

郷土史ふたたび 第二十五回

日本神話への誘い（いざない）

敷津松之宮大國主神社

宮司 藤枝春彰

「大國主命の根國での冒険」
今回も前回と同じく、お正月にご社頭においてよく聞かれます事は、ねずみの事であります。なぜ大國様とねずみが関係しているのですかと、今回はその答えをさがしにいこうではありません。

今年で編纂千三百年を迎える現存最古の歴史書「古事記」に、神々の息吹を再度感じていただけます。前回は大國主の命（おおくにぬしみこと）別名大國様の因幡の白兎のくだりで終わりましたが、今回はわが敷津地区の氏神さんであります敷津松之宮にまつられている神様・須佐之男命（スサノオノミコト）の出番でございます。

さて、大國主の命（別名だいこく様）は八十神達からのいろいろな受難をうけ、このままではたいへん危険であると思い、祖父の神にあたる須佐之男命の支配する、黄泉（よみ）の國である根堅洲國（ねのかたすくに）に一時身を隠すことにして、大國主（スセリビメ）が案内の声を聞いて現れた。そしてこの二人は、顔を合わせるなり深い恋に落ちて、互いに眼と眼とを見合わせ、いつまでも変わらぬ夫婦の誓をかわした。その上で、姫は宮殿の中に帰って行き、父神に向かつて、「この上もない申し上げた。そこでスサノノ大神は、オオクニヌシノ神を見るなり」「これは葦原色許男（アシハラシコヲ・大國主）という神だ。」こう言つた。そこで宮殿の中へと呼び入れたが、大神はこの大國主を憎んで、彼を蛇（へび）の棲んでいる室（むろ）の中に泊めた。妻のスセリ姫は、このままでは夫の命が危ないので、蛇を払いのける魔法の領巾（ひれ）を夫に手渡して、「蛇が食いつこうとしたなら、この（ひれ）を三度振って、追い払え」と大丈夫でござりますから。」こう教えた。大國主は教えられた通りにしたが、（ひれ）の呪い力のために、蛇どもも自然おとなしくなつたので、その晩は無事に寝ることが出来、

朝になると平気な顔で室から出て来た。次の夜は、今度は呉公（むかで）と蜂とが棲んでいた室の中に入れられた。しかし、やはり妻の姫が呉公（むかで）と蜂を払いのける魔法の領巾（ひれ）を渡して、前と同様のやりかたを教えてくれてので、安々と室から出でることが出来た。

矢（かぶらや）をあげて空を飛ぶ鏑



野原の中に入つて
行くと、野原の周
囲にぐるっと火を

つけた。（これは東南アジアで広く行われている
焼畑農業である）すると一面の火で、どっちへ逃
げ出せばよいのか分からぬ。万事休したと思つ
ているところに、ねずみが一匹現れた。「おや？」

野ねずみが何か言つてゐる。「内はほらほら、外
はすぶすぶ」と聞こえる。「ほらほら」は、ほら
穴のほら。「すぶすぶ」はすばまるの意らしい。
つまり、地上のところはすばまつてゐるが、その
下に大きい穴があるから、そこに隠れるという忠
告らしい。そこで足元をどんどん踏むと、ストンと
穴があき、そこは洞穴になつていて、そこに落ち
込んで隠れている間に、火は入口の外を通つて焼
け過ぎて行つた。

昔、子供の頃「なぞなぞ」という遊びを、祖母
から習つたことおもいだし、神社境内でたくさん
の子供達が「上は戦争・下は大火事」でなんや！
などなつかしく思ひ出されます。

そして、神話のつづきにもどりますと、そこ
先ほどの野ねずみが、鏑矢（かぶらや）の鏑の方
を口にくわえて持つて来ると、大國主に差し出し
た。軽い羽の方は、その子供たちが、総がかりで
口にくわえて運んで來た。一方その妻のスセリ姫
は、盛んな野火の模様を見て、もはや夫は亡いも
のの思い、葬式に使う道具を手に持つて、声をあ
げて泣きながらそこへ來た。父の大神も、これな
ぜかだめだと思つてはいるが、それでも鏑矢を大
國主へと差し出した。

大國主命（だいこく様）のいのちをたすけた、
いのちの恩人が白ねずみさんでした。神のお使い
ねずみのお話でした。このつづきは、また次の

「音楽で楽しく（認知症予防）」

苦に徹する

今年度のネットワーク研修会は松本先生を講師におむかえし、連合会館で四十五名の出席者のもと「音楽で楽しく」という題で講義を受けました。先生は、いきいき教室などで、小学校との交流もされた方です。歌をうたうためには、鼻から吸つて、口からはく、ビーチボールかふうせんになつた感じで深呼吸をする。いきをはく事が出来ない時は、声を出してする。軽い体操をゆっくりと

する。目を開けてするとストレッチになるが、 目をつむると口を開けるのでストレッチにはならない。実習では、斜め後に手を開けて、 深呼吸する。楽しく歌うのが良い。

「はとポッポ」明治四十一年に初めて教科書にのつた唱歌。五十音で口を開けて歌う。

「もみじ」は、百年以上



前の唱歌だそうです。「故郷の空」は、明治二十一年外国の歌を小学唱歌にしたそうです。また、生活の中にも色々な歌がある。ゴミの収集車も、普通のゴミの時は「ことりの来る町」がなつてゐる。カン、ピン、ペットボトルの時は「赤とんぼ」。衣類は「シャボン玉」。電車が入つてくる時も上り、下りで違う音楽、水戸黄門の歌で「どんぐり、ころころ」の曲で歌うと違った感じがする。遊びとして歌詞を入れかえてても良い。

冬景色、たき火、雪などは石油販売の時に鳴つてゐる。

何かをしながら何かをする。リクレーションの歌は動くことが目的である。

「もしもしかめ」の歌で手あそびをし、パーゲーであるとむつかしいが、なればできる。頭にゆさぶりをかける事が大切です。肩たたきの歌にあわせて体を動かす。となり組をうたつて約一時間がすぎました。苦手な方は息をはいていると思つてすると良いと思います。

活発な活動をしていただいているレポートやスナップ写真等の資料類も添えて戴ければ幸いです。

編集室つづしん

各委員会にお願い

これから行事予定などを寄稿してください。いきいきとした紙面にしたいと思いますので、記事に関するご意見、お問い合わせ等、地域のホットニュースは編集室まで、是非ご一報ください。

【敷津友愛編集室】